

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 仁摩福祉会	代表者	石橋 秀利	法人・ 事業所 の特徴	大田市の中心にあり、海、山、川が近くにあり街中に出やすい環境で、祭り事や催事に出掛けやすい。家庭的な雰囲気のある事業所で、季節の食材にこだわり健康に配慮した手作りの食事を提供している。また、月の行事を大切に、利用者、家族と一緒にやっている。
事業所名	小規模多機能居宅介 護事業者えがお	管理者	渡辺 絵利子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団 体	利用者	利用者家族	地域包括支援センタ-	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	人	人	1人	人	人	3人	人	7人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	評価委員の方に、言葉の説明やわかりやすくするような配慮をする。項目について理解を深める。	職員は、理解度や取り組みにばらつきがあり、確認が不十分な面もあった。早めに委員へ前もっての説明報告が必要と思った。	自己評価をみなさんできちんと話し合いが出来ていると確認が出来ました。	職員に、評価の理解や取り組み改善計画をミーティング等で話しをする。委員へ早めの説明報告わかりやすい配慮をしていく。
B. 事業所の しつらえ・環境	接遇やマナー等の研修を行い心地良い接遇を行う。引き続き心地良い空間を作る。入口にゴミ箱をすぐに設置する。	入口には早急にゴミ箱を設置した。接遇の研修をオンラインで全職員実施できた。	玄関先に写真が貼ってあり何を取り組みしているかわかりやすく良いと思う。においや鍵等もかけていなく良い。	月の担当が、玄関に季節に応じた展示物を張り出す。 月に1回、施設回りの清掃を行う。
C. 事業所と地域の かかわり	今年度も地域とのかかわりを大切にするために納涼祭を開催する。また広報を作成し地域へ発信して行く。	新型コロナウイルスの影響により納涼祭の開催ができなかった。広報作成は法人と一緒に【こもれび】を作成し、SNSでも発信をする事が出来た。	コロナ渦の為行事参加が難しいと思う。 やはり、地域にあまり知られていないと感じる。	地域のサロンや地域の会合に参加し、関わりを持つ。
D. 地域に向いて 本人の暮らしを 支える取組み	今年度も地域の行事を大切に、積極的に交流を深めて行く。	新型コロナウイルスの影響により利用者と職員との小さな規模での行事のみとなった。	ドライブに出掛けている事が確認出来た。町内でやっているサロンに来て頂きたいがコロナ渦の為難しい面もある。	新型コロナウイルスの影響を見ながら地域参加に参加する。 地域の見守り隊に参加をする。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	家族アンケートを実施し家族の声を聞いてみる。	アンケートを実施できなかった。 職員が運営推進会議の事を把握できていない。	他の家族はどのように思っているか聞いて欲しい。 職員も運営推進会議でどのような話し合いになっているか把握できていない。	第三者評価を受審し家族の声を聞いてみる。 運営推進会議で地域の情報を収集し、ミーティングで報告をする。
F. 事業所の 防災・災害対策	防災訓練や災害訓練に参加して頂けるように声掛けを行う。	島根県総合防災訓練に参加し、事業所の防災訓練を実施できた。コロナウイルスの影響により地域の方への声掛けができなかった。	災害時事業所としてなにが出来るか地域に発信して欲しい。	年2回の避難訓練の中で運営推進委員方や町内の方と一緒に実施して見る。